令和３年度
「少年の主張」全道大会　－ 未来への夢、希望を自らの言葉で堂々と主張 －

「少年の主張」全道大会は、1979年（昭和54年）の国際児童年を記念し始まり、今回で42回目を迎えました。
今年は、道内278校から2万5千人を超える参加があり、その中から各振興局等地区大会を経て、地区代表に選ばれた中学生16人による全道大会（ビデオ審査）が実施され各賞が決定しました。受賞者の皆さんの主張は、社会に向けての意見や未来への夢など自分の思いを素直に表現し多くの人に感銘をあたえる素晴らしい内容でした。

受賞者のみなさん

最優秀賞（北海道知事賞）
吉野　真帆さん（胆振）洞爺湖町立洞爺中学校３年
『完璧じゃなくていい』

優秀賞（北海道教育委員会教育長賞）
伊藤　琉希さん（釧路）厚岸町立真龍中学校３年
『いじめのない未来へ』

優秀賞（北海道PTA連合会会長賞）
佐藤　莉子さん（上川）和寒町立和寒中学校３年
『今を生きる私達へ』

優秀賞（（公財）北海道青少年育成協会会長賞）
中山　芽依さん（オホーツク）美幌町立北中学校２年
『すべての個性が輝くために』

奨励賞
谷　和珠さん（空知）長沼町立長沼中　３年
三好　陸翔さん（渡島）函館市立赤川中　３年
桒野　結衣さん（十勝）新得町立新得中　３年
楠田　理子さん（石狩）恵庭市立恵明中　３年
平田　咲輝さん（檜山）せたな町立瀬棚中　３年
荒井　響稀さん（根室）別海町立上春別中　３年
土屋　結愛さん（後志）留寿都村立留寿都中　２年
多田　莉世さん（留萌）天塩町立天塩中　３年
寒　爽一さん（札幌市）札幌市立厚別南中　３年
設楽　幸さん（日高）新ひだか町立三石中　２年
三浦　瑠夏さん（宗谷）礼文町立香深中　３年
平山　來夢さん（札幌市）札幌市立篠路西中　３年

最優秀賞（北海道知事賞）
『完璧じゃなくていい』
【胆振地区代表】洞爺湖町立洞爺中学校 3年 吉野 真帆さん

普通の体になりたい、私はずっとそう思っていました。
私は、耳が悪いです。聞こえてはいるのです。でも、聞き取れないのです。一定以上の高い音や低い音が聞き取れないのです。一番辛いのは、授業中です。先生が「教科書開いて」と言っても聞き取れていなくて、友達に教えてもらったり、先生の話が聞こえていなかったので「もう一度言ってください。」とおねがいして、授業を止めてしまうこともありました。その度に、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。
私は、周りの人が助けてくれた時にいつも「ごめんね。ごめんなさい。」と、謝っていました。
どうして耳が悪いんだろう。もっと普通の体になりたい。周りの人はきっと、迷惑だと思っている、そうずっと思っていました。
そして、耳が悪い私が悪いのだと、自分を責め続けていました。
そんなある時、私の話を聞いてくれた人がいました。
「私、耳が悪くて、周りの人に迷惑かけている自分が情けなくなる。話してても聞こえてなくて、ごめんね。」と、謝った時のことです。
その人は「そんなの思わなくていい。なんで謝るの、謝らなくていいからもっと頼ってよ。」そう言ってくれたのです。
その瞬間、耳の悪いのは恥ずかしいと思っていた気持ちが一気に晴れたように感じました。今まで周りは私のことが迷惑だと思っていたのに、本当は助けようとしてくれていた人がいたのです。
今まで自分が閉じ込められていた世界が解き放されたように感じました。
そして、私は耳が悪いけれど「これが私なんだ」と強く思うことができたのです。よく「耳が悪いのはかわいそうだね。」と、言われますが、私はかわいそうではありません。ただ、耳が悪いだけです。そして、耳が悪かったからこそ、人の優しさや、周りの支えに気づくことができたのです。
そう思うと、今までごめんなさい、と思っていた気持ちが、ありがとう、という気持ちに変わりました。耳の悪い私だからこそ、人の優しさに何度も助けられ、大切な人の存在に気づくことができたのです。
世界には、色々な障害がある人たちがいます。私のように耳が悪い人も、目が見えない人、手足が不自由な人。また、身体が不自由と言うだけではなく、自分に自信がなかったり、自分の存在自体を受け止められない人もたくさんいると思います。
でも、それは悪いことでも、かわいそうなことでもない。人と違うところがあるとしても、自分に欠けているところがあると思うことがあっても、そのままでいいのです。身体が不自由でも、自分に自信がなくても、だからこそ気づける優しさが、周りにきっとあります。
私たちはみんな、完璧な存在ではありません。完璧ではないからこそ、見える世界があるのです。
みんなたくさんの人に助けてもらって、今を生きています。家族はもちろん、友達、先生、大切な人、見知らぬ人、本当にたくさんの人です。今を笑顔で過ごせているのはその人たちのおかげです。私はもう、自分を責めたりなどはしません。この世界にこの体で生まれたことは一つの奇跡だと思うからです。それを気づかせてくれたのは、人の優しさです。完璧でなくても、その隙間を埋めてくれる。
人の優しさに気づけたらみなさん、このことを思い出してみてください。完璧である必要がないということを。完璧ではないからこそ、支え合える世界があるということを。
世界には、色々な人たちがいます。私たち一人一人が手を取り合って、堂々と自分を好きでいられる世界をつくっていきませんか。